

宇都宮市管工事業協組

# 青年部会員が実技指導

## 県央産技専門校生へ分水作業講習



中村理事長

宇都宮市管工事業協組(中村勝理事長)は5日、管工事業館で分水作業講習会を開催した。同組合青年部会(福富昭部会長)の会員11人が講義や実技指導を行い、県立県央産業技術専門校建築設備科の1年生10人に分水作業の役割や手順を教えた。

開講にあたり、中村理事長は「会員が能登半島地震の被災地に給水作業に行ったが、改めて水が出なくて困っている人を

助ける職業だと実感した。分水作業は基本的な実技なので、講習を通じて設備業に興味を持ってもらいたい」とあいさつした。

また、同組合教育技術委員会の黒川平委員長は「被災地に給水タンクを持って行きたいと志願し

たが、水は命だと思う」と述べた。

座学では、青年部理事の黒崎丈博氏が宇都宮市の水道の歴史や配水の仕組みなどを紹介したほか、分水作業に関するDVDも視聴した。また、会員が実施した能登半島での給水管の復旧作業のスライドも上映した。

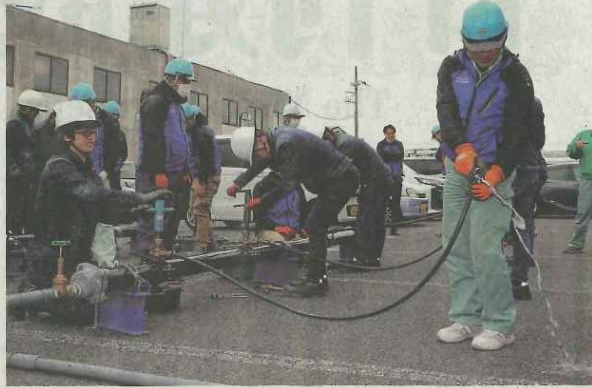
その後は駐車場に移動し、水道の配管を模した設備を使用した実習に入った。取付管の清掃後、分水栓の取り付け・仮締

めから本締め、穿孔、通水まで一連の作業を行った。生徒たちは青年部会員による説明を聞き指導を受けながら、一つ一つの作業を確実に進めた。

同校の古沢和夫教授は「現役の方に指導いただけるのは貴重でありがたい。能登半島地震を踏まえて、自分たちが学んでいることはライフラインという大変重要なものだと、改めてプライドを持って仕事に興味を持ってもらいたい」と話し、生

徒の進路選択の一助となることを期待した。

分水作業講習会は、企業の実践技術者から直に技術を学ぶことで技能習得意欲と就業意欲の向上を図るとともに、建築設備業に携わる人材の育成を目的に実施している。



分水作業の実習の様子(上)と能登半島での給水管復旧作業のスライド

